

神戸医療生協支援ニュース

2011年3月31日 第12号

■現地からのレポート（3月30日）

（箕畑医師）今日は今（深夜0時）まで仕事してました。宮城先生といいコンビが組めているような気がします。宮城先生の長期的ビジョンをもった活動には本当に脱帽です。たった数日でこれだけのことができるのかと勉強になりました。反面、即席のチームをどう機能させるかということは苦手というかそもそもそういう視点がないので僕はチームが宮城先生のビジョンに沿った機能を発揮出来るよう調整役をしています。

（宮本看護師）お疲れ様です。今日は一日地域まわりでした。こちらは業者の整備が入った所ですが道の所どころに車がひっくり返ったりしてます。昼からは対話した人達に物資を届けに行きました。元気にされていてもやはり心はボロボロで思わず涙が出そうになります。飴やチョコレートを少しずつちびっこに配りました。なんかサンタクロースになった気分です。婦長さんとお会いできませんがみんな元気です。こちらはあまり寒くなく私は相変わらず余震も余り(全く)感じません貴重な体験ありがとうございましたあと一日がんばります



3月31日付け「赤旗」に掲載されました

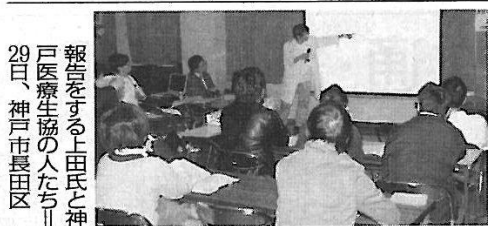
神戸医療生活協同組合は29日、神戸市長田区の神戸協同病院で東日本大震災現地支援報告集を開き、職員や組合員85人が参加しました。

医師、看護師らが地震・津波の被害と宮城県内の病院や避難所での支援活動を映像も交えて報告しました。

同病院の上田耕蔵院長は、大規模、石油不

被災地の病院に長期支援が必要

神戸医療生協報告会



報告をする上田氏と神戸医療生協の人たち
29日、神戸市長田区

足、原発事故という被災の特徴とともに、低体温症が多いことなどを紹介しました。避難所でのインフルエンザなど感染症対策とともに、水・トイレ、ポラリティーなど今後の課題を提起しました。

福祉用具相談員の岸田道義さんは、98歳と90歳の両親の介護のために避難所に行けず被災した自宅2階でくらす男性から、おむつなどが手に入らないことや支援物資も届かず情報、会話もなく孤立感を訴えられたことを紹介し、男性が「人と話ができよかった」と喜んでくれたことなど被災者の声を報告しました。

被災地の病院がほぼ日常診療に戻ってはいてもスタッフも被災者で長期・継続的な支援の必要性や、支援物資が十分届かない避難所があるなどの問題も指摘されました。

■対策本部事務局から

本日夜～橋看護部長が支援へ出発します

・箕畑医師から連絡があり、もう1日支援を延長し、4月2日（土）に帰神する予定です。他の3名は、本日午後に現地を出発し明日の早朝帰神する予定です。

■4月11日～17日 支援の行程

* およその行程です。

4/11(月)新神戸駅 18時02分 のぞみ48号
東京駅 20時53分着
ホテルへ

4/12日(火) 9時 全日本民医連事務所前
バスで現地へ
15時頃到着
受付、振分け後支援開始

4/13(水) }
4/14(木) } 4日間支援活動
4/15(金) }
4/16(土) }

4/17(日) 9時現地発東京へ(バス)
東京駅 17時10分 のぞみ55号
新神戸駅 19時58分着

■支援物資について

・4月15日で一旦締切、全日本民医連及び医療福祉生協連へ物資を送る予定をしています。このニュースでも繰り返し掲載していますが、肌着（下着）の男性用・女性用の新品は、現地のニーズも高いと思われるので、ぜひ！宜しくお願い致します。

■本日、クリエイト兵庫は、義援金を全日本民医連に振り込みました。

行き帰りのJRは目安です。
支援希望の職員は、職場調整の上、阪森まで！